

教材名	紙幣・硬貨カード	
写真		
作成者・所有者	平成 26 年度 A部門高等部 2 年 伊 藤 毅	
対 象	生活自立課程における国語科・数学科学習グループ (B グループ) 生徒 ※1 年～3 年	
目的・効果	「お金の使い方を知ろう」の単元で、金種、大小関係や等価関係、値段の読み方や表し方、複数の金種を使つての値段の構成、お釣りが発生する金額について学習した。その後、「買い物体験の準備をしよう」の単元で実際の買い物での活かせる臨機応援な支払い方を練習した。その中で実際の紙幣・硬貨に代えてその扱い方を個々に学習させる目的で作成した。 1000 円、500 円、100 円、50 円、10 円、5 円等の各種紙幣硬貨を実物大でカラープリントし（ネット教材利用）、パウチしてカードしただけのものだが、単一のもの（例えば 100 円）以外に 400 円、300 円、200 円といったカードをつくったので、500 円カードと組み合わせて様々な金額を手元で構成できる。	
使い方	(1) 同じ大きさの金額をつくる場合 例えば「230 円をつくりましょう」と指示した場合、最も簡単な例として生徒は 200 円カード 1 枚と 30 円カード 1 枚を合わせて並べる。 (2) お金の交換（両替え）をする場合 100 円と 10 円 10 枚、1000 円と 500 円 2 枚など両替えのパターンをカードで覚える。 (3) 50 円、500 円を使って金額をつくる場合 例えば「370 円をつくりましょう」と指示した場合、70 円の部分を 10 円硬貨カードのみで並べていたら、もっと早く簡単な出し方を問いかけ、そこに 50 円カードと 20 円カードを置き換える。 (4) お釣りの確認をする場合 例えば 50 円で 30 円の買い物をしてお釣りがあつた場合、50 円カードであれば、10 円 5 枚に並べ替え、さらに 30 円カードも並行して並べると、金額の差が視覚的にわかりやすくなり、お釣りのイメージがつかめる。	